

自然体験のススメ

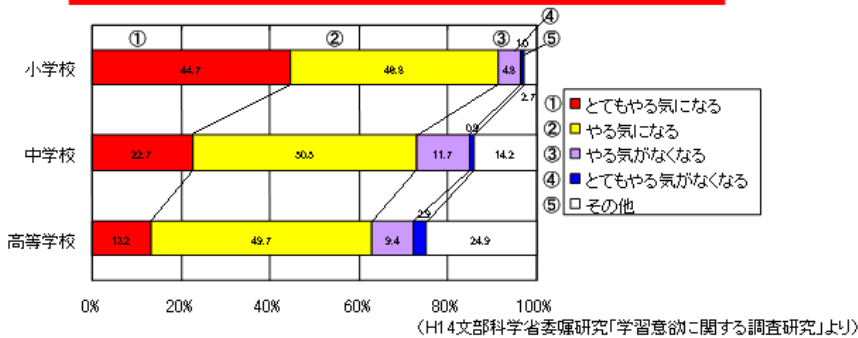
園長 宇塚 華子

園庭にあるプールの水面がキラキラ輝き、子どもたちの元気な笑い声が聞こえてきます。少し前の話になりますが、5月30日(木)に、もも組さんばら組さんは生物園に遠足に行ってきました。ばら組さんも、もも組さんも昨年の子どもたちとは様子が違い、並び方や歩き方、お友達との関わり方など成長を感じます。

生物園では、様々な魚や、リスや猫までいたので子どもたちは興味津々。目をキラキラさせながら様々な生き物の様子を観察していました。大温室では蝶を観察しました。たくさんの蝶が子どもたちのすぐ近くをひらひらと舞っていましたが、誰も優しくその姿を目で追うだけで、触ったりしませんでした。大温室を出た頃、時間は早かったのですが、子供たちが「お腹がすいた。」「早く、お弁当が食べたい。｣と言っていたので早めのお弁当を食べました。

みんなとても嬉しそうにお弁当を広げ「いただきます。｣の瞬間「いやー」の声。「どうしたの?」と近寄ると「あり。あり。｣と涙声。「ありさんも『おいしそうなおべんとうだなあ。』って遊びに来たんじゃない?」と言っても、怖くて座れない様子。ありがきても平気な子と、ちょっとびっくりしている子がいたので、「ありさんが怖い」と言っている子は、みんな呼んで園長の座ってるシートで食べました。ありが来る度に私が追い払っていると、「何で園長先生は強いのか?」の声。「園長だから。｣と言うと、「へー。すごい。｣と羨望の眼差しで見てもらうことができました。蟻たちのおかげで、園長はヒーローになることができました。

自然に触れる体験をしたあと、勉強に対してやる気が出る子どもが増える

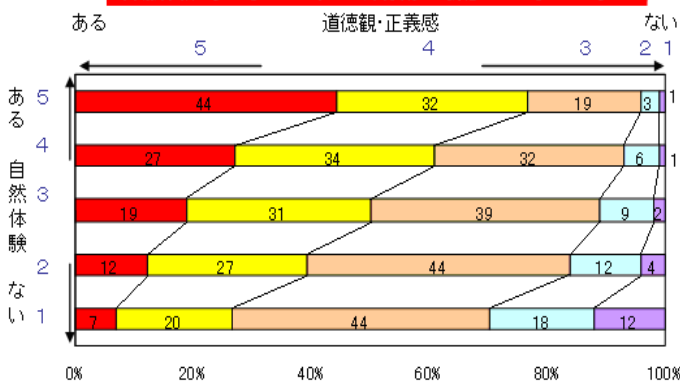


私が小さい頃、蟻やミミズはとても身近でした。お腹がすくとツツジの蜜を吸い、「おいしいよ。」と友達に勧められた雑草『スカンボ(スイバ)』の茎をかじりました。なかなかのお転婆でやんちゃだったので、今でも友達と山を登り自然の中にいます。

左の図は、文部科学省の「体験活動の教育的意義」の中にあつたグラフです。小学生からの調査結果ですが、自然体験の有効性が小さいときほどはっきりと表れている様子がわかります。自然体験は、学力も、道徳性も育ててくれるのです。

夏休みは自然に触れる絶好の機会です。海に山に普段できない自然経験をお子さんと一緒に楽しんでみてはいかがでしょうか。

自然体験の多い子どもの中には道徳観・正義感のある子どもが多い



※グラフ中の数値は5段階の割合を示す。
(H17独立行政法人国立青少年教育振興機構「青少年の自然体験活動等に関する実態調査」より)